

## 東京歯科大学に対する相互評価結果

### 認定の可否

貴大学は2003(平成15)年度相互評価の結果、本協会の大学基準に適合していることを認定する。

### 相互評価結果の概要

#### [1] 総 評

##### 1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢

貴大学歯学部は、血脇守之助の「歯科医師である前に人間たれ」という建学の精神のもと、「歯学に関する専門の学術を教育、研究するとともに、豊かな教養と高い人格を備えた、優れた人材を育成し、もって人類の福祉に貢献する」ことを目的に掲げている。さらに、歯科医師としての知識や技術だけでなく、コミュニケーション能力を涵養し、社会性、国際性を身につけ、人間的にも優れた良識ある歯科医師を養成することを重視している点は高く評価できる。また、社会状況を常に認識し、求められる人材の育成のための検証を常に行い、それに伴う成果は高い歯科医師国家試験の合格率に表れており、この点でも医療人養成機関として社会の要請に十分応えていると評価できる。

さらに、常に教育内容の点検・改良に継続的に取り組み、最近では問題解決型教育や歯学教育モデル・コア・カリキュラムを導入し、歯科医師臨床研修制度にも積極的に対応している。また、教員の意識改革のためのFDや、自己評価を行って、毎年、大学の理念・目的・目標を検証している。このような建学の精神に沿った積極的な全学的展開は高く評価できるものの、学生の臨床実習の診療課題、実施方法にさらに検討を加え、より診療参加型に傾斜されることが期待される。

歯学研究科は「歯学及び歯学に関連する学問の領域において、理論応用を教授かつ研究し、その奥義を究め、人類福祉の増進、延いては文化の進展に寄与するとともに、貴大学の建学の精神を踏まえた教育理念に基づき、有能な研究指導者を養成する」ことを目的に掲げ、リサーチ・マインドを兼ね備えた医療人養成を目指している点は評価できる。しかし、大学院研究科の理念・目的に国際的な活動・貢献を進める姿勢が見受けられないので、国際的にも研究面で認知・評価されるよう努力が期待される。

##### 2 自己点検・評価の体制

「東京歯科大学自己点検・評価委員会規定」に従い、従前からの自己点検・評価活

動に加えて、第三者評価の視点から本協会の点検・評価項目を勘案するという基本的方針のもとに10の部会を設け、さらに部会は必要に応じて小委員会を設け、活発な部会活動を展開しており、貴大学の点検・評価が有効に活用されている点は高く評価できる。

### 3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

「歯科医師である前に人間たれ」という建学の精神を継承、堅持していこうとする努力が様々な施策に窺える。すなわち、ファカルティ・ディベロップメント、教育ワークショップ、カリキュラム研修ワークショップ、歯科医学教育セミナーなどを通じて、医療人養成機関としての大学や教員の社会的責任を確認させつつ、「人間生物学」「コミュニケーション学」「細胞分子生物学」「発生学」「総合講義」など新しいカリキュラムの開発を進めてきた点は高く評価できる。

また、臨床歯科医学教育の拠点として3病院を有しており、千葉病院は臨床参加型の病院実習、卒後臨床研修の場として、市川総合病院は地域の基幹病院、全身の健康についての臨床研修、臨床見学の場として、水道橋病院は都市型病院、総合臨床の研修、臨床見学の場として、貴大学の建学の精神に則った教育に全学的な熱意が窺える。しかし、医療が実践学であるとすれば、診療参加型に向けて3病院のさらなる有効活用が期待される。

その他、最先端の学術研究基盤の強化を目指して口腔科学研究センターを設立され、「口腔機能による生態制御機構の解明」「口腔・顎顔面機能再構築のための高機能素材の開発」、「口腔・顎顔面機能の中枢制御に関する研究」、「唾液による生体制御に関する研究」など特色のあるプロジェクト研究を進めており、今後の成果が期待される。高度化、国際化に向けた大学院教育・研究と同センターの環境の整備・拡充に鋭意努力され、多角的なプロジェクト研究を設定しているところに貴大学の熱意が窺えるが、国際的な活動が未だ低調に見受けられるので、今後の健闘が期待される。

## [2] 勧告・助言

総評に提示した事項に関連して特に改善を要する点や特筆すべき点を以下に列挙する。

### 一、勧告

#### 1 学生の受け入れについて

1) 推薦入学試験において、受験生に学科テストを課していることは推薦入学の趣旨に反しているため改善されたい。

#### 2 学生生活への配慮について

1) 学生に対するセクシャル・ハラスメントの防止に関する規程や相談窓口を整備されたい。

## 二、助言

### 1 大学・学部・大学院研究科等の理念・目的・教育目標について

長所の指摘に関わるもの

なし

問題点の指摘に関わるもの

なし

### 2 教育研究組織について

長所の指摘に関わるもの

1) 日本で最大の角膜移植施設である角膜センター・アイバンクを設置し、アイバンク事業、角膜移植および角膜再生医療に関する研究を行っていることは評価できる。再生医療の基礎研究は口腔医学の分野においては重要であり、期待されるものは大きい。

2) 口腔科学研究センターには、貴大学における先端的な教育・研究や基礎的研究を推進するために、各種の最新の研究機器が設置されており、有効に共同利用されている。特に、同センター内の脳科学研究施設には、国内では最大のチャンネルを持つ脳磁場計が設置されており、口腔・顎顔面機能の制御メカニズムの解明に向けた研究が行われ、その研究成果の期待は大きい。

問題点の指摘に関わるもの

なし

### 3 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について

#### (1) 教育研究の内容等

長所の指摘に関わるもの

1) 一般教養教育においては、優れた見識と人間性を培い、幅広い教養を身に付けるための導入期教育を取り込んだカリキュラムを編成している。

また、教養科目と専門科目を横断的にまとめた科目である「人間生物学」を実施し、大きな単位を与えている。これらの点は評価できる。

2) 5年間にわたり「コミュニケーション学」をカリキュラムに盛り込み、「生命倫理」、「社会福祉」の講義とあわせて、医療人としての倫理性・社会性を培う教育を重視していることは評価できる。

3) 「課題講義」は、基礎・臨床科目を歯科臨床の立場から、口腔機能、疾患・異常、身体機能という切り口で編成された貴大学独自のカリキュラムである。また、附属病院を活用した「関連臨床医学教育」を行い、医療現場で必要とされる歯科固有の領域に偏らない意識の育成を図っている。これらは評価で

きる。

問題点の指摘に関わるもの

なし

(2) 教育方法とその改善

長所の指摘に関わるもの

- 1) 時代の要請に対応しながら、学部教育課程・カリキュラムの改善に努めていることは評価できる。
- 2) 歯科医学教育の体系に基づく教育課程は確立しているが、さらに、教育に関する各種委員会をきめ細かく立ち上げ、時代の要請、学生の資質の多様化に必要な周辺科目のカリキュラムの見直しに積極的に取り組んでいることは評価できる。
- 3) 1999(平成11)年度から教育ワークショップが毎年開催され、学生の視点に立った教育方法・内容、授業形態、教室や実習室の改修・整備等のソフトおよびハード両面の改善が進められた。これらの点から教育面での大きな成果が期待される。

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 特定の授業科目において学生による授業評価を行い、授業内容の改善に向けた努力がなされているが、「学生による評価」を全学的なシステムとして導入することが望まれる。
- 2) 「問題発見・問題解決型学習」としてチュートリアル教育を導入しているが、その評価が曖昧である。チューター・学生・教育効果に対し、評価方法の確立が必要であるとともに、少人数教育として1グループ11~12名はやや多く、教育効果に疑問がある。これらへの改善の検討が望まれる。

(3) 国内外における教育研究交流

長所の指摘に関わるもの

なし

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 点検・評価報告書にもあるように国際交流は個人的な研究者によって始まることが多く、その研究者がいなくなると交流が途絶えることが一般的に見られる。そのことから協定姉妹校との継続的な教育・研究交流を大学として取り組む姿勢が望まれる。

4 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について

(1) 教育・研究指導の内容等

長所の指摘に関わるもの

- 1) 臨床研究の場として3つの附属病院があり、大学院における教育・研究に有効に機能している。

#### 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 能力の高い研究指導者を育成するシステムとしては、従来の講座制の枠を超えていない。所属講座・研究室に関係なく受講できる総合的な教育プログラムの検討が望まれる。

### (2) 教育・研究指導方法の改善

#### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 新入生学外総合セミナーおよびベーシックセミナーを実施し、具体的な修学方法の解説や院生としての研究に対する動機を高める努力などを行っていることは評価できる。

#### 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 大学院では学生による授業評価を導入していないので、導入を検討することが望まれる。
- 2) 学位論文を国際誌に掲載することを一層推進するなど、論文の水準をあげる努力が望まれる。
- 3) 成績評価は各講座の担当教員に一任されているが、学生の資質向上の状況を検証する客観的な方法の検討が望まれる。

### (3) 国内外における教育・研究交流

#### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 「文部科学省私立大学等経常費特別補助(高度化の推進)大学院重点特別経費」を得て、国内研究者との共同研究を積極的に進めていることは評価できる。
- 2) 口腔科学研究センターにおけるプロジェクト研究を、国内外を問わず推進していることは評価できる。

#### 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 院生の国際学会への参加および、国際誌への学位論文の発表、国内外の研究者によるセミナーへの参加は国際交流を推進する方策として評価できるが、海外派遣数、欧文の学位論文数はまだ十分とはいえない。今後の努力が望まれる。
- 2) 国際学会などでの発表および参加、国際誌への発表について、専攻講座に片寄りが見られる。院生が年度や専攻講座に偏りがないように国際学会などへ参加することを推進するシステムの整備が望まれる。

### (4) 学位授与・課程修了の認定

#### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 審査委員会の構成にあたり、基礎系論文の場合は臨床系の教員、臨床系論文の場合は基礎系の職員を副査に必ず加えていること、学外者からの論文提出については予備審査委員会が構成されていることは論文審査の客観性を高めており、評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 学位審査にあたり講座主任教授が主査を兼ねることには、審査の公正性、透明性の担保という観点から矛盾があるので、改善が望まれる。

## 5 学生の受け入れについて

長所の指摘に関わるもの

なし

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 大学院の学生の受け入れについて、他大学出身者は過去 3 ヶ年において受験者数および合格者数の 10%前後と少ない。教育・研究環境などは整備されていることから、他大学、外国人の受け入れの促進を図るべく工夫することが望まれる。

## 6 教育研究のための人的体制について

長所の指摘に関わるもの

- 1) 歯科医学教育の改革に伴う教育カリキュラム等の改編により、講座・研究室の統廃合をふまえた組織の改革および定員の見直しを計画的、段階的に実施している点は評価できる。
- 2) 任期制(助手)が導入されている点は評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 貴大学における臨床歯学系教員に自学出身者が多いほか、女性教員の数が少ない点も含め、教員の公募制をさらに有効に活用し、幅広く人材を求めることが期待される。

## 7 大学院における研究活動と研究体制の整備について

### (1) 研究活動

長所の指摘に関わるもの

- 1) 1996(平成 8)年度に文部科学省の私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業に選定され「口腔科学研究センター」を設立し、プロジェクト研究を学際的、国際的協力体制で推進していることは評価できる。
- 2) 2000(平成 12)年度私立大学バイオベンチャー研究開発拠点整備事業に選定され、国内研究施設として最大規模の角膜センターにおいて、角膜移植・再生研

究についてのプロジェクト研究が行われていることは評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 研究成果の公表・発信の場として「歯科学報」の発行(年 12 回)を精力的に行っているが、同雑誌に拘らず国際誌への投稿に向けての努力が望まれる。

## (2) 研究体制の整備

長所の指摘に関わるもの

- 1) 科学研究費補助金の採択状況が件数、金額共に高水準を維持していることは高く評価できる。
- 2) 学内において経常的研究費の他に、口腔科学研究センター研究費、共同研究費および学長奨励研究費の競争的研究資金が設けられ運用されていることは、競争的な研究環境のもと研究活動の活性化につながっており、評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

なし

## 8 施設・設備等について

長所の指摘に関わるもの

- 1) 視聴覚機器の導入、全国共用試験に備えた整備など教育研究環境の向上に努めていることは評価できる。
- 2) 1998(平成 10)年度には、臨床基礎実習室に臨床基礎実習総合シミュレーション装置を整備し、実際の歯科臨床において行われる基礎的手技のトレーニングについて、可能な限り模型を用いて疑似体験させ、歯科疾患の診断、術前評価および管理計画の作成能力の涵養に主点を置いた基礎実習を実施していることは評価できる。
- 3) 2000(平成 12)年度には教育用学内無線 LAN システムを整備した。これにより学生は講義を聴くだけでなく、パソコンを用いて、各講座において製作された Web 上や CD-ROM 等によるマルチメディア教材を講義中あるいは時間外においてもリアルタイムに利用し、個々の習熟度にあわせた学習が可能になったことは評価できる。
- 4) マルチメディアを活用した教育のための教養棟教室を CAI(computer-assisted instruction)化していることは評価できる。
- 5) 大学院教育研究の面から、毎年の予算として特別機器備品整備費、恒常的機器備品整備費が支出され、それに加えて各講座・研究室教員の科学研究費補助金等により各講座および共同研究施設等の充実が図られていることは評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

なし

## 9 図書館及び図書等の資料、学術情報について

### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 図書総数は 191,837 冊、雑誌は和書 1,890 誌、洋書 1,776 冊、現在の定期洋雑誌は 574 タイトル、視聴覚資料 308、電子ジャーナル 158 であり充実した整備状況である。また、歯学系単科大学図書館としては職員の配置（本館 9 名）がなされており、これらは評価できる。
- 2) 日本医学図書館協会に早くから加盟し、相互貸借、文献複写によるサービスを充実させ、その活用しやすさ、便利さの向上に努めているのは評価できる。

### 問題点の指摘に関わるもの

なし

## 10 社会貢献について

### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 法歯学、法人類学の立場から身元鑑定等により、警察や司法行政に協力しており、その実績は高く評価できる。

### 問題点の指摘に関わるもの

なし

## 11 学生生活への配慮について

### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 保護者との連携方法として「父兄会定時総会」と同時に行われる「修学指導方針説明会」、また「修学指導関係者・父兄個別面談会」などを行っていることは評価できる。
- 2) 課外活動については、運動部クラブ 25 団体、運動部系同好会 3 団体、文化部系クラブ 11、文化部系同好会 7 団体の計 46 団体が活動しており、2001（平成 13）年度には全体の 84.3%の学生が参加している。大学としてもグラウンド、合宿所を含む部屋の整備など課外活動を積極的に支援している。これらの点は評価できる。

### 問題点の指摘に関わるもの

なし

## 12 管理運営について

### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 学長は学務、財務および人事担当の常務理事に選任されており、理事会と大学との意見の調整を図る立場にある。これによって大学の教学に関する意見が法人理事会に十分反映されており、評価できる。



問題点の指摘に関わるもの

なし

### 1.3 財政について

長所の指摘に関わるもの

- 1) 教育・研究・診療条件の維持向上のための投資を継続して行っており、特に 1999(平成 11)年度から 2001(平成 13)年度まで設備投資を実施するなど、歯科医学への積極的な取り組みが見られる点は評価できる。
- 2) 科学研究費補助金および研究施設設備補助金・奨学研究寄付金などの外部資金の受入額が年々増加している点は評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

- 1) 財政公開に関しては、大学広報を通じて消費収支計算書および貸借対照表の公開が、教職員・学生・父母・卒業生に対してなされているが、資金収支計算書を含めた財務三表すべてを広く財政公開を実施することが望まれる。

### 1.4 事務組織について

長所の指摘に関わるもの

- 1) 事務組織と教学組織は各々独自性を維持しながら連携協力関係を確立し有機的に一体化しており、評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

なし

### 1.5 自己点検・評価等について

長所の指摘に関わるもの

- 1) 新しく加えられた点検・評価項目を適用しても 7 年後とされている本協会の相互評価の周期を自主的に早め、5 年後の本年度に第 2 回目の申請を行った。これについては、大学、歯科界の著しい変化にいち早く対応し、数々の新しい施策を講じ、実行してきた貴大学の医療人養成機関、研究機関としての社会的責任を重視している現われと高く評価できる。
- 2) 平成 9 年度の本協会の相互評価の結果、貴大学に対する勧告事項はなかったものの、付された助言内容をふまえ、該当する各部門で鋭意改善・実施の努力を重ねてきた点は高く評価できる。

問題点の指摘に関わるもの

なし

### 1.6 附属病院について

#### 長所の指摘に関わるもの

- 1) 市川総合病院は医師の研修病院としても機能しており、広い視野を持つ歯科医師の養成に適している。
- 2) 3つの附属病院のうち、千葉病院および水道橋病院は歯学部における臨床実習の場・歯科医師臨床研修施設として、各講座に所属した研修医に対し、前期を各診療科でのローテーション方式とし、基本的な診断、手技から専門領域における治療技術を修得させていることは評価できる。特に市川総合病院では、歯学部学生および歯科臨床研修医に対して、歯科医療のみならず、医学的素養をもった歯科医師の養成に効果的な教育機能を果たしている。また、歯科医師臨床研修の後半は、前期の研修を受けて、志望科でのストレート方式の研修あるいはその他の施設（開業医等）での研修の選択制とし、研修医に自主性を持たせていることも評価できる。
- 3) 市川総合病院と東京歯科大学口腔科学研究センターの間で共同研究が実施されており、先端医療研究の面での成果は評価できる。

#### 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 千葉病院および水道橋病院の歯科臨床研修医の教育方針は、基本的な診断、治療技術の修得には役立っているが、報告書にあるように複数科にわたる総合的知識を必要とする症例に対しては、指導体制に工夫が必要である。
- 2) 市川総合病院では、医療領域を含めた広範囲の研修を目指す特徴ある研修を行っていることは評価できるが、研修上の時間的制約、指導教員の負担等を考慮してバランスのとれた研修内容を構築する必要がある。
- 3) いずれの病院においても、限られた研修期間の中で効率的に教育を行うため、教授方法を熟知した指導医の養成、カリキュラムの改善、その他学内外の研修施設の整備などの課題が残されているので、今後の改善が望まれる。
- 4) 歯科臨床研修医数は千葉病院で平成13年度49名、平成14年度43名、市川総合病院で平成13年度5名、平成14年度5名、水道橋病院で平成13年度23名、平成14年度13名であり、1学年定員128名に比して多いとは言えない。特に千葉病院の受け入れ数を増やす必要がある。

以上